「五街道の道しるべを巡り歩く」シリーズマップ

藤井寺市域及び周辺には、東高野街道・長尾街道・古市街道・巡礼街道・竹内街道と東西・南北に古くからの道が通っています。江戸時代にはこれらの街道を利用して、寺社参詣や商いなどで多くの人が行き交いました。移動されているものも多くありますが、街道の要所には、道標（道しるべ）が建てられています。藤井寺市域の街道沿いを中心に、道標（道しるべ）を探しながら散策してみませんか。

※マップ内の古１ 古１ 等のラベルは本文中の写真撮影地点の番号です。

Copyright2013 藤井寺市観光ボランティアの会

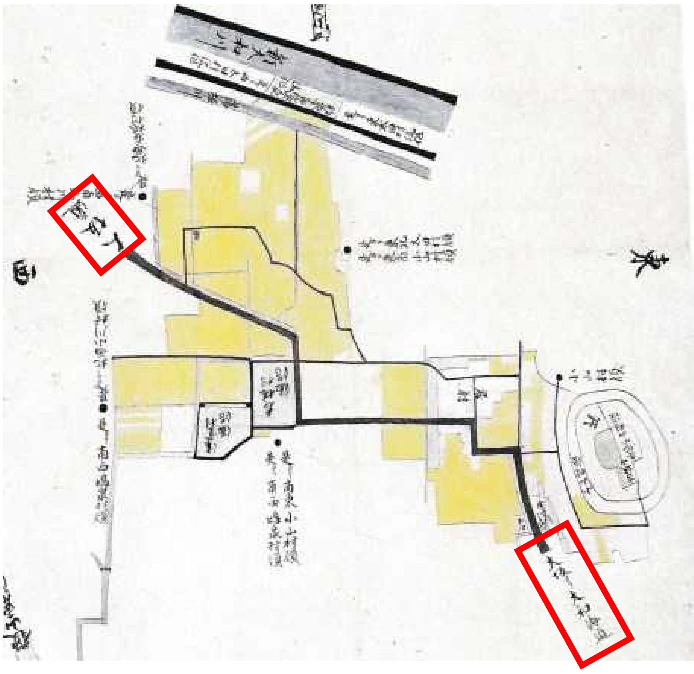
31．五街道の道しるべを巡り歩く　その三「**古市街道（大坂街道）**」前編

前回は長尾街道をご紹介しましたが、今回は南北に走る古市街道（大坂街道）です。

古市街道は、大坂平野郷から松原市、藤井寺市を通り羽曳野市の古市へ至る街道です。古市街道と大坂街道の二つの街道名を並記していますが、大坂からですと古市に至る街道、古市からですと大坂に至る街道になりますので、紹介は「古市街道」として標記します。また、これ以外の名前でも呼ばれている街道でもあります。

大阪の平野で奈良街道から別れ、長原・川辺（平野区）を通り、松原市の大堀・若林や小川を経て、藤井寺市に入り羽曳野市の古市に向かう街道でした。古市街道は小山（藤井寺市）で長尾街道と、古市で竹内街道や東高野街道と結ばれましたので、大和街道とも呼ばれました。

松原市の小川を通り、藤井寺市の津堂にある藤井寺高校の北側を抜けます。



そ【粗／×麁】
雑なこと。大まかなこと。

河内国丹北郡津堂村 領麁絵図

上記「河内国丹北郡津堂村領麁（そ）絵図」の西上方に『大坂道』、東下方に『大坂ヨリ大和海道』と書かれています。

小川から地道を東進し南へ　古１

カラ池から東へ

カラ池から真っ直ぐ進むと西水川に架かる橋を渡ります。この橋の名前は『馬街道橋』となっています。

古２

街道から北方向　　　　　　　　　　ユニークな欄干

『馬街道橋』があるこの街道は「馬街道」とも呼ばれているのだが、理由は定かではありません。

更に東へと進む。道幅も狭くなり昔の集落の状況を見ることができます。

古３

正面に「津堂城山古墳」が見えてきます。直進すると古墳へ行くが、手前の道を右折します。

暫く道なりに南へ進むと、津堂から小山に入り正面右手に産土神社が見えてきます。産土神社の手前に江戸時代「小山代官所」が所在したことはあまり知られていません。

古４

元代官屋敷の建物と塀（既に建て替え）

余談　【（在）地代官＝村支配を強化するために設けられ、村むらの庄屋や村人たちをその役宅（地代官の自宅）に召喚して調査・支配することが容易になった。（藤井寺市史）】。

『文久３年（1863）８月、旗本戸田河内守の陣屋が津堂村におかれており、その隣村の小山村に戸田氏の代官役を勤める松田又助と小泉治郎左衛門がいた。この両家を天誅組の浪人たち五六人が襲い、武器や馬具を強請した。又助らはその要求に従ったので事無きをえた。』

「藤井寺市史　第二巻」

母屋　古５

鬼瓦

吉村虎（寅）太郎

天誅組総裁を勤めた吉村虎（寅）太郎の着用している「胴当て」は、松田家から徴用した武具らしい。『丸に松』の家紋は、松田家の鬼瓦に見ることができます。

産土神社

草慴曳図（初代　鳥居清信筆）産土神社蔵

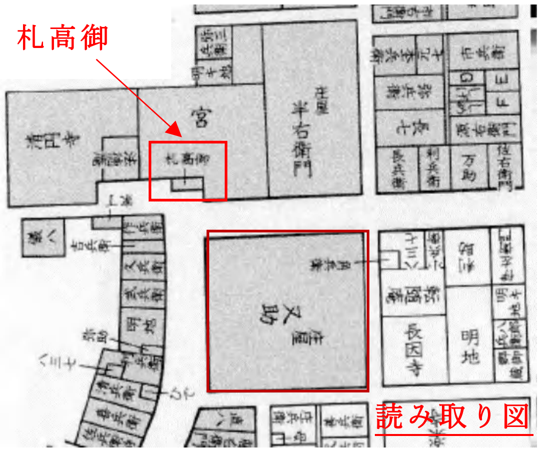
古６

西面・正面

右
大峰山
ふじい
い勢
寺

東面・裏面

天保十二丑正月吉日
世話人
彦兵工
儀八



志紀郡小山村屋敷絵図　文政～天保（1818～1843）

① この道標は、天保 12（1841）年１月に、地元の彦兵衛と儀八が世話人となって、大峯参詣の道しるべとして造立したものです。伊勢・葛井寺への案内もあわせて書かれています。

・初代鳥居清信（1664～1729）の現存絵馬は少なく、大江山絵図、坂東一寿蘇我七草の段があるにすぎません。奉納者の辰巳伊兵衛、忠兵衛は江戸在住と裏面に裏書があり、当地の出身であるらしい。

・産土神社前には「高札場」も描かれており、『在地代官屋敷』の側にありました。

産土神社前を右折し、南へ向かうと左手に大きな常夜燈が立っています。

「文政十三年庚寅（1830）年
十一月吉日」

古 7

この常夜燈は、元は現在の大阪市天王寺区空堀町にあり、後に小山に移され、明治 24 年になって現在の場所に移築されたといわれています。江戸時代に、庶民が集団的に親や主人に無断で伊勢神宮へ参詣することが大流行しました。この現象はお蔭参りと呼ばれています。文政 13 年および天保元年の参詣者は、数か月間で 500 万人にのぼったと伝えられます。

街道が賑わっている様子は「河内名所図会」にも描かれており、直ぐ近くに「小山善光寺」もあります。

小山団扇（かんすけ団扇）河内名所図会　　小山善光寺　古 8

河内名所図会にも描かれていますが、戦国時代（永禄年間の頃）、武田家の謀臣山本勘助が三好氏の動きを探るため小山に移り住み、偵察を行いました。姓名を匿して浅野文吾と称し、隠れ蓑の生業として、団扇を製造、商いました。勘助の団扇は、「其骨つよく、其面は清く、柄を座上に立てても倒れず、涼しい風を送ること世の凡扇の類にあらず」と大評判になりました。

小山善光寺前を南に進むと、右（西）からの長尾街道と合流します。

古 9

正面・西面	北面・左側面	南面・右側面	東面・裏面
右ハいせ道明寺 藤井寺	慶応三卯天十二月吉日	村内安全	世話人 伊勢講 金毘羅講 中

古９

② 長尾街道に古市街道が合流するＴ字路にある道標で、慶応 3（1867）年 12 月に、地元の伊勢講と金毘羅講の人々により、村内安全を祈願して建立されました。頭部に十字の溝が切ってあり、提灯などをこの上に設置したとも考えられます。伊勢参りを対象にしたもので、文字は雄大で彫りも深い。

下部が土中に埋もれているが、伊勢とともに道明寺・葛井寺の案内もかねているらしい。造立時期からして､「ええじゃないか」の流行とかかわる可能性があります。　北面「天」＝「年」（長尾街道編と同じものです）

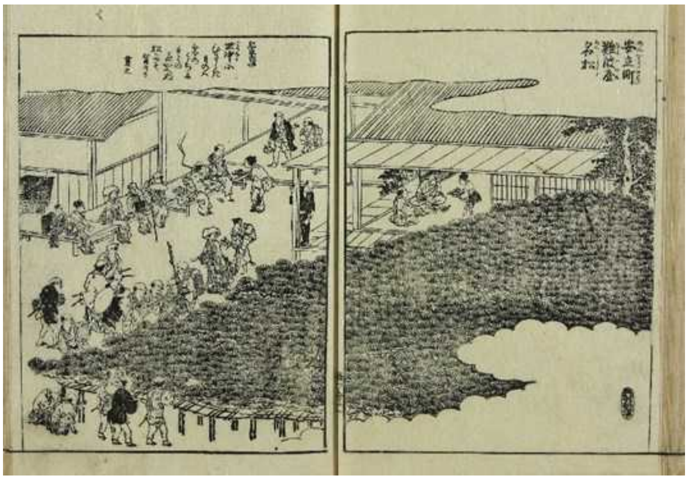
東　面	南　面	西　面
右 大阪	さかい　妙国寺そてつ 左 なにはやかさ松　住吉大社	于時　文化◇◇年　三月

古９

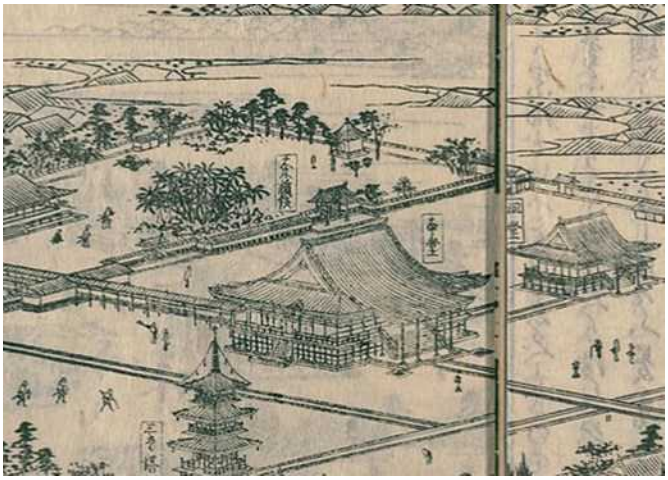
道標②の向い、Ｔ字路の西北角に、堺の妙国寺のソテツなどの名所を刻んだ文化年間（1804～1818）銘の道標が立っていたが、車両事故で倒壊した後、所在不明となっています。

（長尾街道編と同じものです）

因みに、道標に銘記された「なにはや　かさ松」･「妙国寺　ソテツ」とも摂津名所図会・和泉名所図会に描かれており、江戸後期に大坂南部方面を訪れる旅人は、住吉大社へ参拝し、安立難波屋の笠松を見て、そして妙国寺のソテツを見るというのが定番のコースであったとのことです。



摂津名所図会　寛政 8 年（1796）　かさ松



和泉名所図会　寛政 8 年（1796）　妙国寺（部分）

ここから暫く古市街道と重複します。南に向いた街道はすぐ岡にはいり、府道堺大和高田線を横断したのち、東へ折れる長尾街道と分かれて南下を続けます。岡の南端、古市街道との分岐点には元禄１４（1701）年銘の角柱の道標が立てられていましたが、現在は藤井寺市役所南側に移築されています。

市役所南側に移築　古１０

西　面	北　面	南　面
右ハ ふじい寺 かふや よしの はせミち	左ハ なら ミち かふり山	元禄十四 辛 九月吉日 巳 片山 浄恵
正面・南	左側面・西	右側面・東

→ 当初分岐点の位置での向き

古１０

→ 現在の向き

③　元禄 14（1701）年のこの道標は、藤井寺市内で最古の道標です。元々ここから西へ 200mほどの南東角（古市道との分岐点）にあったのを保存のため移築しています。長尾街道を進む道が奈良・郡山と大和盆地を示すのに対し、南下する道の行先に葛井寺・高野・吉野・長谷（初瀬）を記している。吉野・長谷へはこの先で竹内街道に合流し、高野は古市から東高野街道をとったものであろう。長尾街道が参詣道として多くの人々で賑わった往時が偲ばれます。（長尾街道編と同じものです）

南に進む古市街道は、近鉄南大阪線の踏切を渡り岡から藤井寺へ入ります。やがて左手に西国三十三所葛井寺が見えてきます。西門（四脚門）の北側に地蔵堂があります。

西門（四脚門）

地蔵堂

古１１

古１１

④　葛井寺西門の北側、商店街に面して西向きの地蔵堂があり、中に五体の地蔵が祭られています。
中央の舟形浮彫地蔵が道標を兼ねています。持錫持宝地蔵立像の地蔵には種子（カ）があり、左右の光背面に案内の文字が刻まれています。向かって右側に「右　道明寺」、左側に「左　なら　たつだ」とあります。内容からもとは長尾街道沿いで、道明寺への間道との分岐点に立てられていた可能性があります。

葛井寺西門を過ぎ南へ進むと、右手に「辛國神社」が有り、神社前の三叉路を左折し東へ進みます。
この三叉路角に「仲哀天皇陵参拝道碑」が立っていましたが、車両により壊され今は無くなっています。

古１２

小山の文化年間の道標、道明寺の南大門、そして仲哀天皇陵参拝道碑と何れも車により破損してそれ以後、再設置される事無く失われています。残念なことです。
此処を左折すると西国三十三所五番札所の葛井寺南大門前に出ます。施福寺から大坂

を経由する「大坂廻り路」で参詣する人々には巡礼街道とも呼ばれていました。

葛井寺・南大門　　古１３　　南大門前から南へ

葛井寺の南大門前に二つの道標があります。

西　面	北　面	東　面
右 つぼさか　よしの はせ　い勢	左 道明寺　たつた ほうりうし　なら	堺 神南辺大道心

古１３

⑤　西国第五番札所である葛井寺の南大門前の三叉路の南東角に所在するこの道標は、葛井寺への参詣者に次の霊場を案内するためのもので、西面は順礼街道を南下し、軽里から竹内街道に入って東進する場合を記し、北面は葛井寺の門前を東に進み、道明寺・国府を経て長尾街道に入り東進する場合を示しています。

造立年代は不明ですが、堺在住の神南辺大道心（隆光）が社会事業の一環として製作したものです。碑文は美しいくずし字で書かれ、彫りも深く、すぐれた道標と言えます。

左 つぼ坂

古１３

⑥　葛井寺南大門前の三叉路の南西角、⑤の道標の向いに自然石があり、平らな北東面に「左つぼ坂」と刻まれています。西国第六番札所である壷坂寺（壷坂山南法華寺）へは、順礼街道を戻って軽里から竹内街道を東に進みます。札所のみを案内する順礼街道本来の道しるべです。

後編につづく　　（2024.5　中村）